

## 岡崎市徳川家康公顕彰推進協議会について

### 1 経緯

2023年大河ドラマ放送を契機とした地域経済の持続的発展を目指し、市内経済団体をメンバーとして設立（令和3年9月14日）。

### 2 実績等

主に、大河ドラマ館事業、みやげ店事業を実施したほか、ロゴマークやポスター、のぼり旗などによる地域全体の活性化を図るとともに、記念植樹や記念講演会など、顕彰事業を実施した。

また、岡崎公園の名称について岡崎市へ提言を行い、「城がある公園」としての認知度向上のため、「岡崎城公園」と園名が変更された（令和6年12月26日）。

岡崎市は、大河ドラマ「どうする家康」に関連する市内への経済効果は、143億円（経済波及効果110億円、パブリシティ効果33億円）と推計した（令和6年3月29日発表）。

岡崎市は、家康公生誕の地として新たな進化を遂げるため、アフター大河事業の一環として、「徳川家康公顕彰条例」を制定した（令和6年9月17日）。これを受け、伝統ある岡崎の春の風物詩である「家康行列」は、市制110周年を迎える令和8年から、「家康公行列」と名称をあらためて開催予定である（令和8年1月10日発表）。

### 3 今後

徳川家康公顕彰条例は、市民のシビックプライドを高め地域活性化につなげるという、まちづくりの基本姿勢を示しており、経済・観光分野に限らず、家康公顕彰の精神を活かしていく市の方向性を市内外へ明確にしている。

市内経済団体が組織してきた本協議会は、地域経済の活性化及び家康公顕彰への底上げに寄与し、一定の役割を果たしたため、一旦終了とする。

なお、ロゴマーク及びキャッチコピーについては、岡崎市がその管理を引き継ぐ。